

# 主任者 コーナー

## 平成 26 年度放射線安全取扱部会年次大会 (第 55 回放射線管理研修会) のご案内



放射線安全取扱部会  
部会長 宮越順二

今年の放射線安全取扱部会年次大会は 10 月 30, 31 日に、札幌市・北海道立道民活動センター“かでる 2・7”で開催されます。東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故以来、3 年 8 か月が過ぎようとしています。人々の放射線に対する意識は依然高く、当部会の役割も大きいと考えています。

さて、今年度の大会のメインテーマは、「放射線安全教育と放射線利用のさらなる向上を目指して!!」です。シンプルですが、部会員としては、久しぶりに本来の役割を再認識するテーマだと感じています。まず、初日の特別講演（一般公開）の 1 つは、若土正曉氏（北海道大学名誉教授）より、「豊かな海の秘密」と題して行われます。若土氏は北海道大学低温科学研究所在籍中から、オホーツク海の流氷観測やその気候とのかかわりなど、興味深い研究をされております。普段なかなか聞くことができない話ですので、今から楽しみです。一方、近年、粒子線治療が注目を浴びている中、北海道での陽子線治療施設第 1 号の立ち上げに携わられた梅垣菊男氏（北海道大学大学院工学研究院）による特別講演、「これからの北海道の陽子線治療」が 2 日目に行われます。さらに 3 日目の特別講演として、初日に、原子力規制委員会原子力規制庁放射線対策・保障措置課放射線規制室の島根義幸氏から、「放射性同位元素等の規制

に係る最近の動向」と題して、行政の立場から講演が行われます。

初日のシンポジウムについては、「ここまで来た獣医療での放射線利用」（一般公開）と題して、獣医学の分野における診断や治療でのアイソトープや放射線利用の最新情報が紹介されます。次に、2 日目には「学校教育における放射線教育」と題して、中学校・高等学校の教員を対象とした、放射線教育の経験と今後の提言が紹介されます。本部会として、放射線教育資料の作成に携わってきたメンバーのうち 4 名が演者として、資料内容やこれまでの教育経験に触れます。福島第一原発事故以来、放射線教育の重要性が叫ばれる中、当部会活動の 1 つとして今後の更なる期待が寄せられています。3 日目のシンポジウムは、「放射性廃棄物の現状と課題」と題して、国内の放射性廃棄物処分や計画について多方面から紹介されます。

例年行っております相談コーナー、機器展示や書籍コーナーも設けられます。この年次大会が、放射線に関する公共の安全・安心の確保に寄与する部会の目的を達成するため、少なからずその役割を果たすことができる機会と確信しております。末筆ながら、稲波修実行委員長、北海道支部を中心とした実行委員会の皆さん、事務局の方々に心から感謝申し上げます。

(京都大学生存圏研究所)